



## 中高教諭 緒方哲也先生が御永眠されました

学園長 山田明彦

3月7日付の全学連絡でお知らせしましたように、中高の英語科教諭の緒方哲也先生が、3月6日に御永眠されました。享年58歳でおられました。

お通夜は3月11日、告別式は翌日に執り行われ、中高の在校生、卒業生、教職員、保護者の方々が大量参列されました。お元気がだった頃の緒方先生のお姿を皆さんで偲び、御冥福をお祈りいたしました。

3月9日の高等学校卒業式では、木下校長から、緒方先生の御逝去を受けたお話がなされました。緒方先生が、現職復帰への強い願いをずっと持ちながら長い闘病生活を送っておられたご様子が伝えられるとともに、卒業生たちに卒業式当日にぜひ届けてほしい、と緒方先生から託された励ましのメッセージを校長先生が朗読されたのです。アリーナ全体に悲しみがあふれ、多数の方々

が泣いておられました。

この春の卒業生は、緒方先生とは中学2年から高校2年まで4年間も直接の関わりがありました。緒方先生の深い思いやりを、卒業生たちはしっかりと心に刻んだことと思われまます。

3月12日の告別式では、学園長と今年度高3学年主任の石原正博先生から弔辞を述べさせていただきました。石原先生からは、緒方先生が先輩の同僚としてとても大切な頼れる先輩であったことを話され、仕事に悩んだ時に学年主任として助言に努めてくれた思い出などにふれ、深い感謝の気持ちをお伝えしました。私からは職場で長く同僚関係にあった一人として、緒方先生のお人柄やご功績をお伝えさせていただきました。以下にご紹介させていただきます。

### 3月12日告別式における学園長弔辞

湘南学園を代表して、緒方哲也先生のご霊前に、お別れの辞をささげます。

緒方先生は、湘南学園中高の英語科教諭として、1985年から34年間にわたって貢献されてこられた、とても大切な先生でした。

緒方先生の明るくて気さくなお人柄は、学園関係者の誰もが大好きであり、生徒も教員も保護者も、皆さんが話しかけたくなる、優しい先生でした。

特に中学生や高校生にとっては、何でも親身に相談に応じてもらえる存在でした。温かい愛情で見守ってもらえる、いつも近い場所にいる先生でした。

英語の勉強がうまくいかない生徒や、大学受験でサポートを求める生徒に、辛抱強く献身的に、応援を続ける緒方先生の姿を、よく見かけました。

そして、同僚の教員に対しては、誰に対しても分け隔てなくフレンドリーに関わってくれ、時には温かく助言をしてもらえる、大切な存在でした。

個人的には、緒方先生と私がまだ若かった時代に、全国の先進校への視察・研修の機会をともした年のことが、まず思い起こされます。

大阪のある進学校を拠点にした数泊の研修でしたが、つぶさに現地で見聞を重ねて、湘南学園の将来へ向けて「あれもしたいね」「ここも参考にしたいね」と語り合いました。オフタイムには、大阪の街を廻って、英気を養いました。

そうした時にも、話題の中心には学園生のことがありました。生徒たちの新しい学びや挑戦を応援したいね、との強い願いをともしたのです。

生徒会の指導主任として、生徒達の要望と教員側の意向の間で、苦労を重ねられた時代もありました。解決の方向を探って、

真摯に悩んでいたご様子も思い出されます。

本校のグローバル教育のプログラムが海外各地に広がっていくと、カナダセミナーや韓国セミナーなどで中心となり、募集や事前学習、現地の引率指導やサポートなどでご尽力いただきました。

緒方先生は、くっきりとして読みやすい字体も印象的でした。あの懐かしいすてきな字のことを思い出します。イラストとかデザインが、とっても上手な方でした。

海外セミナーや総合学習の、ポスターや冊子をつくる場面で、緒方先生の手になるとつい目を凝らしてしまう魅力がありました。その手腕にいつも脱帽していました。

学園でのランチでは、日頃から果物やお野菜の「副食」を用意されて、健康にも気をつけておられたお姿を思いおこします。時々、フルーツのおすそ分けもいただきました。

今回体調を崩され、闘病生活に入られてからも、きっと現場に復帰して下さるものと信じておりました。勤務のペースを少しずつ回復され、また学園でともに頑張っていただけのものでおりました。

それなのに、とつぜんのお知らせに、悲しみがこみあげるばかりでした。

緒方先生が、こんなにも早くご永眠されるなんて、いまだに信じられません。

緒方先生がお元気だった頃に、さまざまな分野で献身的に取り組んでおられたお姿をしっかりと心にとどめたいと思います。

生徒や周りの人をいつも大事にされた緒方先生のご遺志を継いで、学園生たちのしあわせと学園教育の発展のために、残された私たちが力を合わせて努力してまいります。

緒方先生、ありがとうございます。どうか安らかにおやすみください。

先生の御冥福を心からお祈り申し上げます。